

キリストの宣言

チャック・スミス

死は人間存在の終わりではありません。聖書には、人には一度死ぬことと、死後に裁きに会うことが定められている、と書かれています。その裁きの後、全ての人は永遠に天国に行くか、永遠に地獄に行くかのどちらかです。あなたの永遠の行き先は、あなたがイエス・キリストの宣言を信じるか信じないかによって決まるのです。

ヨハネの福音書 12 章 44 節からはこう書かれています。「イエスは大声で言われた。「わたしを信じる者は、わたしではなく、わたしを遣わされた方を信じるのです。また、わたしを見る者は、わたしを遣わした方を見るのです。わたしは光として世に来ました。わたしを信じる者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。だれかが、わたしの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばくものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくのです。わたしは自分から話したわけではありません。わたしを遣わした父ご自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。わたしは、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、わたしが話していることは、父がわたしに言われたとおりを、そのままに話しているのです。」

この何節かで、イエスが彼自身について語った根本的な宣言を見ていきましょう。

1. 彼は自分を信じることは彼を遣わした方、(天の)父を信じることと同等であると言いました。彼は何度も何度も神が自分を遣わしたと公言しました。
2. 彼を信じることは神を信じることと同等である。

3. 彼を見た者は、神を見たのと同じであると言いました。
4. 彼は自分が光として世に来たと主張しました。
5. 彼を信じる者はやみの中にとどまることがない。
6. 彼は自分が世を救うために来たと述べました。
7. 彼は自分を信じない者は、彼が話したことばによってさばかれると宣言しました。
8. 彼は彼の教えが自分からのものではなく、天の父が自分に話すように命じたことばを話したと宣言しました。
9. 彼は自分のことばが永遠のいのちだと断言しました。

これらがイエスの主張です。これらはかなり過激な宣言であるという事実は否定できません。イエスが自分自身について語った強烈な声明は、全ての人に選択をせまります。私たちは彼の主張を受け入れるか、もしくは拒否しなくてはなりません。私たちは彼を信じるか、信じないかのどちらかしかありません。このような極端な宣言を、ただ単に無視したり避けたりする余地はありません。イエスが宣言したことばに対し、私たちは意見を持たざるを得ません。そして、その意見は結局は二つのうちのいずれかに分かれます。彼は真実を語ったのか、嘘をついたのか、どちらかです。彼は神の御子であると同時に歴史上最も偉大な人物であったか、それともペテン師か詐欺師であったかのどちらかです。あなたはもっと優しく、「多分彼は自分が言ったことを自分で信じきっていたと思うが、彼は錯覚していたんだ。もし彼が今現代に生きていたなら、彼はおそらく精神病施設に入れられただろう。」と言うかもしれません。でも、問題は残ります。彼の宣言は本当なのか偽りなのか？イエスは彼自身が主張した者（お方）なのか、そうではないのか？

私たちは、イエスが宣言したことを実証する多くのしるしを新約聖書に読むことができます。ヨハネの福音書の14章で、イエスは彼がここで宣言したことをいくつか繰り返し、またさらに以下のようにいくつか付け加えています。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。もしあなたがわたしを見たなら、あなたは父を見たのです。わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。」つまり、イエスは、自分が人間の姿をとられた神御自身であり、完全に真理と永遠のいのちを与える源であると宣言しています。それだけではなく、彼の奇跡的な行ないや「わざ」を通して決定的な証拠を与えています。ヨハネの福音書で、イエスはバプテスマのヨハネが自分について証言したと言いました。しかし、自分にはヨハネの証言よりもさらに優れた証があると言いました。このもっと優れた偉大な証・証拠とは、父（天の父なる神）がイエスに成すようにお与えになったわざでした。これらを確認付けるしるしは、イエスの自然要素に対する力です。イエスは水をワインに変え、水の上を歩き、荒れ狂う嵐をことばによって静めました。イエスは触れることによって苦しみを癒したことにより、病気の上に働く彼の力を現しました。彼はらい病人をきよめ、癒しました。足なえを歩かせ、盲人の目を開き、死人さえも生き返らせました。イエスは、彼の教えが真実であることを実証するために、これらのわざを行なったのです。

また、多くの群集がイエスの周りに集まった時、イエスは言いました。「不信仰で邪悪な時代はしるしを求めています。だが、預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。ヨナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。」このように、イエスの復活は、不

信仰な世の中に対し、イエスが確実に御自身に対して宣言した通りの者（お方）であったという基本的なしるしとなります。

イエスが宮の両替人たちを一掃した時、彼はユダヤ人から彼がしたことに対する權威のしるしを求められました。彼の返答は、「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれを建て直します。」というものでした。ヨハネは私たちに、イエスは自分のからだを神殿であると言われたのであって、つまり彼の死後三日目に、墓から復活することを言われていたのだと述べています。

使徒の働き 1 章 3 節では、イエスが「数多くの確かな証拠」をもって自分が生きていることを示したと書いてあります。イエスの死からの復活は、真実性を最も確認できる歴史上の出来事の一つです。これは、マリヤやペテロ、他の弟子達、また当時の五百人以上の多くの目撃者からの証言で確証されています。もし、目撃者の証言を基に事実を確立する、という私たちの法理念システムが正当性を持っているならば、イエスの復活は事実として受け入れられるべきです。あなたは、「しかし、目撃証人に対して反対論がなかったのではないか」と論議するかもしれません。本当にそうですか？これらの大多数の目撃者は、彼らの証言のために乱暴に殺されたのだということを覚えておいて下さい。誰も発言を撤回しなかったのです。そうすることによって自分の命を救うことができたにもかかわらずにです。（もっと詳しい情報については、Foxy's Book of Martyrs を参照して下さい。）あまりにも多くの者が、彼らが見たり聞いたりしたことのために命を捨てたので、ギリシャ語の「マータス martus」（「法律的に証言した者」を意味した言葉）は、クリスチャンの証言のために殉教した者を意味するようになりました。

私たちは、イエスの奇跡的なわざと彼の歴史的な死からの復活と共に、イエスが成就したメシヤに関する数多くの預言も考慮に入れるべきです。（旧約聖書で神が約束して下さっている神の御

子、救い主。旧約聖書（ヘブル語）のメシヤが、新約聖書ではギリシャ語でキリストと訳されている。）旧約聖書には、キリストの誕生、生涯、死、復活において成就された、メシヤに関する三百以上の預言があります。一人の人がそれらの預言を偶然に成就していく可能性はどれくらいでしょうか？あまりにも天文学的な数字なので、そんな可能性はない、ということになるでしょう。ピーター・ストナー氏の「サイエンスは語る (*Science Speaks*) [1]」という本の中で、彼はこれらのメシヤの預言のうち八つを一人の人が成就する可能性は、10 の 17 乗分の 1 であると見積もっています。この確率は何と圧倒的なのでしょうか。ストナー氏はこの確率を以下のように表現しています。「10 の 17 乗枚のドル硬貨をアメリカ・テキサス州の表面に並べ置くとしましょう。それらはテキサス州を 2 フィート（約 61cm）の厚みでカバーすることになります。そのうち一枚のドル硬貨に印を付け、テキサス州全体を万遍なくかき混ぜます。一人の人に目隠しをし、彼が願う通りに遠くまで旅することができるかと彼に言います。しかしそのために、彼は一枚のドル硬貨を取り上げて、これが正しいドル硬貨であると言わなくてはなりません。彼が正しいドル硬貨を取り上げる可能性は一体どんなもののでしょうか。預言者たちがこれら八つの預言を書き、それらが今日の時代にたった一人の人によって成就されるのと同じ可能性です。これら三百もの預言が成就する可能性はなかったことは明らかです。また、預言に書き記された設計が、誰にもコントロールし得ないものであったことに注目することも重要です。メシヤの誕生地から、彼を裏切るために支払われた金額まで、私たちは誰にも調整することが不可能な事柄を見つけます。イエスは、偶然や彼の個人的な努力によって、これら三百もの預言を成就できたはずがありません。神のデザインでしかありえません。

ペテロは、イエスと三年間親しく近い関係を持って生活し、イエスの公生涯の中でも、最も重要な数々の場面においてイエスと共にいました。他の弟子たちが含まれなかった多くの場面において、ペテロは神の特別なわざを見るために、イエスと共にいるようにされました。彼等がヤイロの家に来た時、ヤイロの娘は死んでしまっていたのですが、イエスは全ての人を外へ追い出しました。しかし、イエスはペテロとヨハネだけを自分と共に部屋に連れて入りました。そうして彼等が、ヤイロの娘を生き返らせるイエスの力を目撃する証人となるためでした。また、イエスがカイザリヤ・ピリピにいた時、高い山で、弟子たちの目前でその御姿が変貌された時、その出来事を目撃する為に主に選ばれたのは、ペテロとヤコブとヨハネでした。ペテロの第二の手紙で、彼はこの経験について書き、イエスの衣が太陽のように光り輝き、永遠の神の栄光が彼（イエス）から現れ出ているのを見たと言っています。ペテロは、「わたしたちはあなたがたに、主の栄光を知らせましたが、それは、うまく考え出した作り話に従ったものではありません。」と言っています。それは狡猾に工夫された話ではありません。ペテロは、「私たちは実際に、あの聖なる山で神の御声を聞いた、キリストの威光を目撃者なのです。」と言っています。しかし、この経験が重要であったと同様に、さらに重要な事として、ペテロは、私たちの信仰の確実な土台として、「さらに確かな預言のみことば」を指摘しています。

未来についての預言がなされる時、「複合確率の法則」として知られる統括原則があります。この原則は、預言においてより多くの要素・事柄が設定されればされるほど、それが成就しない確率が大きくなると叙述しています。

例えば、ニューポートビーチは平均して二年に一回地震で揺り動かされるとしましょう。もし私が、今年ニューポートビーチで地震が起きると預言したとしたら、私の預言が正しく起こる確率は2分の1です。もし私が、地震は6月13日に起きると言ったと

したら、1年は365日ありますから、6月13日に地震が起きる確率は365分の1です。もし私が、地震は今年の6月13日に起きると言ったとしたら、その可能性は365x2分の1、つまり730分の1になります。そして、もし私が、地震は今年の6月13日の午後2時5分に起きると宣言したとしたら、1日は1440分ありますから、正確である確率は2x365x1440分の1、つまり1,051,200分の1になります。さて、もし私がもっと大胆に2時5分15秒に地震が起きると言えば、その確率を増大させる事になります。1日は86,400秒ですから、1,051,200倍増して、預言通りに地震が起こる確率は、90,823,680,000分の1となります。これは、ただ4つの要素を考慮しただけです。もし私が預言に、震度、震源地、損害を回復する為に必要な金額等、三百に至るまでのもっとたくさんの要素を付け加えたとしたら、そのような預言が成就する確率がどんなに希薄であるか想像できますか？もし預言されたこと全てが実現したとしたら、あなたは、私は本当に預言者であるか、もしくは事前に秘密の情報を持っていたか、というしかないでしょう。これがまさしく、私たちがイエスに関する預言に直面するのと同じ状態なのです。イエスは、彼について預言された三百以上もの要素を成就したのです。ですから、ペテロが「さらに確かな預言のみことば」と言ったわけがわかるでしょう！

イエスの主張は真実であったという、確かに十分な証拠があります。もしあなたがこれらの主張を信じないなら、それはそれらが信じられないからでもなく、証拠が欠けているからでもなく、あなたが信じたくないからです。なぜ人はイエスの栄光ある宣言を信じたくないのでしょうか。イエスは彼があなたを救いに来たと宣言しているのです。彼は彼のことばがあなたに永遠の命をもた

らすと宣言しているのです。しかし、彼は同時に、もしあなたが信じないなら、あなたはある日、裁きにおいて、神の御前に立つことになることを宣言しています。彼はあなたをさばきません。しかし、あなたは彼が話した言葉によってさばかれます。なぜなら、あなたが彼を信じなかったからです。彼はあなたが命を持ち、またそれを豊かに持つために来たと言いました。なぜ人はそれを信じたくないのでしょうか。イエスは私たちを愛し、私たちを罪の報酬である死から救うために死んで下さいました。

イエスは私たちを愛してくださり、私たちが永遠の命を持つことができるように、私たちの身代わりに死んで下さいました。なぜ人はそれを信じたくないのでしょうか。多くの場合、人は、キリストを信じる信仰は、彼等のライフスタイルを変えなくてはならないので、信じたくないので。彼等は自分勝手な欲望や願望に従って生きており、彼等はその生き方が大好きです。イエスが与えた命令は、肉的な欲望に従って生きていきたい人にとっては快適なものではありません。イエスは、もしあなたが彼に従っていくなら、あなたは自分を否定し、自分の十字架を背負って彼に従いなさい、と言われました。彼は姦淫を責めましたが、多くの者は結婚外の性的関係や不倫願望を持っています。彼は盗む事を責めましたが、多くの者が盗みたいと思っています。彼は不道德な性的表現を責めましたが、多くの者が全ての道徳的規制を捨ててしまうことを願っています。

この世は「自分を満足させろ」と言います。現代は自分を満足させる事が本当によく強調されています。人々は、その与えられた瞬間に、自分たちが願っている事を否定しなくてはならないなどとは聞きたくありません。このように、彼等はライフスタイルの変化を要求されるので、イエスを信じたくないので。イエスは、光の性質の一つは、暗闇の中にあることを明らかにすることなので、人々は光の方に来ない、と言われました。秘密の隠された事は、暗闇によって覆われています。ですからイエスは、彼等は光

の方に来ない、なぜなら彼等の行いが悪いからである、と言われました。彼等は光を憎み、光によって明るみにされる事を望みません。あなたは酒場やバーなどがわざと暗くされているのに気付いたことがありますか。そこにいる人々は隠りたいのです。彼等は見られたくないのです。彼等は悪い事を行なっているので、光よりも闇を愛しているのです。イエスは、この事が多くの者が彼を信じない理由であると言われました。

もしあなたがイエスの主張を信じないなら、私はその理由が何であるかを聞く事に大変興味があります。なぜあなたはそれらを信じないのですか？ある人はこう言うでしょう。「私はそれらを信じません。なぜなら、もし救いがそんなにすばらしいものならば、全ての人が救われるでしょうから。」これは論理的に聞こえるかもしれませんが、それならば、あなたは世界にはたくさん汚い人がいるから石鹸が信じられないということですか？石鹸には価値がないという議論を起こしたいですか？世界中のたくさんの汚い人を見て下さい。もし石鹸が良いものならば、なぜ世界中の全ての人々が清潔ではないのですか？

ある人は、神が彼等の祈りに答える事に失敗するまでは神を信じていたと言います。実際、テッド・ターナー氏（メディア業界有力者、CNN 創設者）は、自分も以前はクリスチャンであった時があったと主張しています。彼がまだ少年であった頃、彼のシスター（お姉さんか妹）は大変な病気を患っていました。彼は神が彼女を癒して下さるように祈りました。しかし、彼女は死んでしまいました。その事件の後、彼はもはや神を信じなくなりました。このテッド・ターナー氏のように、神が特定の祈りに答えて下さらなかったのも、がっかりしてしまった人たちがたくさんいます。神が祈りに答えて下さらなかった（神が自分の祈りを聞いてかなえて下さらなかった、自分が祈った通りにして下さら

なかった) 時、彼等は神は存在しないと結論付けてしまったのです。もちろん、神は私たちの全ての祈りに答える (祈りをかなえる) という義務は持っていません。実際、私は神のみこころに沿っていない私の祈りには、神に答えて (かなえて) もらいたくありません。私は、神が望んでおられないことを、無理に神に強制させるようなことはしたくありません。私たちはしばしば、神を、私たちの一つ一つの気まぐれに答えてくれるサンタクロースのように考えています。神が一つの祈りに答えて下さらなかったと言って神を拒否するのは、まるで、「もし私が警察署長役になれないなら、もうあなたとは遊ばない。私は家に帰る。もし私の方法で遊ばないなら、もうあなたは私の友達じゃない。」と言っている子供と同じです。これは関係を持つ上で、最も幼稚な関係です。

しかし、この種の関係が、多くの人が持とうとする神との関係です。「神が私の思いや願いに沿って遊ぶなら、私は神を信じて神と一緒につき合う。でも、たった一度でも神が私の方法と違った方法を取るなら、それで終わり。私はもう信じない。私は自分のコマを持って家に帰る。」

また、無知ゆえにキリストを拒否するということがあります。私はある男の人が、食べるのには汚れている動物にかかわるレビ記の箇所を読むまで、神と聖書を信じていた、と言うのを聞いた事があります。そこにはどの種の動物が聖いか汚れているかを決定する事実が書かれています。この箇所に野うさぎ (英語ではヘアー) (彼はうさぎ (英語ではラビット) であると訳した) が言及されていますが、この箇所によれば、反芻する (食べ戻しする) 動物です。彼は、うさぎは反芻しないと信じていたので、聖書には間違いがあるので信頼するに値しない、と結論づけました。ですから彼は、聖書に野うさぎが反芻動物であると書かれているのを読んで、神を信じるのを止めてしまいました。興味深い事に、ほんの少し調べれば、この問題は明らかにできたのです。

あるヘブル人学者達は、この箇所という言葉が実際にうさぎ（ラビット）を言及しているのかどうか疑問視しています。ヘブル語のアネベス（日本語では野うさぎ、英語ではヘアーと訳されている）は、派生語源が確かではありません。また生物学者達も、うさぎが反芻と非常に似た行動を取ることを結論付けています。しかし、もっと重要な事は、ある人たちは、あまり重要でない特定事の誤解を基にして、なんと簡単に聖書の全てのメッセージを捨て去ってしまうかと言う事です。裁きの日に、このような態度を持って神の前に立つのはどんな風であるか想像してみてください。「私は、うさぎが反芻すると書かれたあなたの聖書を読むまでは、あなたの事を信じていましたよ。」神がこう答えられるのを想像してみてください。「それは野うさぎ（英語ではヘアー）ではない。アネベスだ。それはうさぎ科の動物ですらない。」

私は、聖書の中に矛盾や間違いを見つけたとして、信仰を投げ出してしまったたくさんの人達に出会ってきました。これらの多くの問題は、私たちが知るべきであり従うべきである、聖書的解釈の一定の規則を理解する事によって、避ける事ができます。まず最初に、私は聖書に書かれている全てを理解しているふりはしないとさせて下さい。聖書の中には、私が理解できないたくさんの事があります。もし私がもっと賢かったら、全てを理解できるかもしれません。しかし、もし私の聖書箇所の解釈が、他の聖書箇所と明らかに矛盾しているなら、私のその解釈が間違っているのです。聖書は間違っていない。私の解釈が間違っているのです。多くの方は、「聖書は間違っている。なぜなら、見て下さい・・・。」と言おうとします。いいえ、聖書は間違っていない。あなたの解釈が間違っているのです。

私は、聖書を間違って解釈しているたくさんの人達に出会った事があります。もしあなたが、ある聖書箇所の解釈が馬鹿げた愚かなことのように思えるなら、あなたのその聖書箇所の解釈は間違っています。神は、馬鹿げた愚かな事は何一つ言われていません。

聖書を指差して責めるより、私の理解力には限界があるという、基本的問題を認識する方がずっと役立ちます。「どうしようもない矛盾だ」と手を投げ出して叫ぶより、その聖書箇所の意味が分からないと告白する方がずっと生産的です。私たちは、神が語っておられる事を理解するために、全ての努力をすべきです。私たちがみことばの的確な解釈を発見する時、それは道理的であり、理性的であり、他の聖書箇所と全く矛盾することはありません。

私たちが聖書に持つ多くの問題は、個人的な推測や偏見の結果である事を覚えておく事はとても重要です。例えば、聖書は、「むちを控えれば子供を甘やかす」と言っています。これは、もしあなたが子供をしつけるために叩く事をしないならば、あなたはその子を甘やかしてダメにするという事です。これは事実を述べているだけです。もしあなたが、しつけの為のむちを控えるならば、あなたはその子を甘やかしてダメにしてしまいます。私の息子が小さかった時、彼はこの箇所を命令だと解釈していました。彼は、「あなたはむちを控えて私を甘やかすべきではないですか」と言いました。息子よ。それは間違った解釈だ。ですから、人の見方によって、二重に解釈される聖書箇所がたくさんあります。そのみことばを、その内容に沿って考慮する代わりに、あまりにも制限した形で見ている事があります。聖書のみことば一節に質問がある人が私の所に来た時には、私はすぐにその箇所の内容を通して読みます。大概、私はその正しい解釈を、その内容の中でつかみます。そして、彼等が考えていたのとは全く違うように解釈するのだと説明してみせます。

イエスは、終わりの日に、彼を信じない者、彼の言葉を信じない者は、裁きのために神の御前に立たなくてはならないと宣言しています。イエスは彼等を裁く事はしないとしました。彼はこの世を裁く為に来たのではありませんでした。彼はこの世を救う為に来たのです。これは、イエスが宗教指導者のニコデモと交わした会話を思い起こさせます。イエスはニコデモに言いました。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれない。」彼はここで同じ事を繰り返しています。「わたしはこの世をさばく為に来たのではない。この世を救う為に来たのだ。」イエスは、彼の使命は世を救うことである、と断言しています。イエスは他の箇所でも、「私は失われた人を捜して救う為に来たのだ。」と言いました。イエスを信じる事は、永遠のいのちを持つ事です。それは、罪の報酬と結果から救われる事です。それは、全ての人間の不義と、神の真理を不義と見なしていた者に対して下されようとしている、神の裁きと怒りから救われる事です。イエスは言いました。「わたしを信じる者はさばかれない。」使徒パウロは言いました。「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。」パウロが教会に対して、「私たちはみな、キリストの裁きの座に立たなくてはならない。」と言った事に注目する事は重要です。しかし、パウロがここで語っている裁きというのは、私たちがこの肉体にいる間に行なった事柄に対して与えられる報酬の事です。それは、オリンピックでの審判官席のようなものです。そこでは、数多くの参加者が、特定のイベントにおいて勝ち取った勝利に対するメダルを受け取るためにやって来ます。このように、私たちが自分たちの報酬を受け取るために、キリストの御前に立ちます。

イエスを信じない人たちにとっては、それは全く異なっています。その人たちは、イエスの言葉を信じなかった事に対する裁き、また、神がキリストを通して提供して下さった神の赦しを受け取らなかった事に対する裁きを受け取るために、神の御座の前に立つ事になります。私は、神が一人一人に弁解する機会を与えて下さると確信しています。しかし、人々が言おうとして探す全てのいいわけが、あまりにも馬鹿げているので、私はほとんどの人が一言も言う事ができないであろうと思います。

さて、私たちは、過激で、劇的で、栄光あるイエス・キリストの主張を見てきました。イエスはあなたを救うためにやって来たと主張しました。イエスは、あなたが彼の言葉を信じ、彼の命令に従うことによって、永遠のいのちを得る事ができると主張しました。

私は長く生きれば生きるほど（年を重ねるごとに）、この世が与える物事は空虚であると見えて来ました。私は、他の人々よりもこの世の多くの物事を獲得した人たちが経験する空しさを見ます。この世が提供できる最高の物事さえ私たちを満足させる事ができないという失望に照らし合わせた時、イエスが提供するいのちは拒否するにはもったいなすぎます。私はこの事に関して何の知的問題もありません。事実、私はイエス・キリストを信じない事に知的問題を感じます。なぜなら、私は何とかして、彼が行なった奇跡について理論付けなくてはならないからです。私は、彼が水の上を歩けた事について、彼がラザロを死から生き返らせた事について、そして彼自身が死から生き返られた事について、何かの説明を思いつかなくてはなりません。私は、一人の人がどうやって偶然にメシヤに関する三百もの預言全てを成就できたのかを説明しなくてはなりません。私にとっては、これらの事柄を合理的に説明しないままでは難しい事です。そして、これらの事柄に理論的でもっともらしい何らかの説明を与える事に、私は非常な困難を持ちます。

何年も前に、私も多くの人を経験するように疑いを持ちました。私はこう考えました。「私は無神論者かもしれない。神は存在しないかもしれない。全ては人間が想像した作り事にすぎないかもしれない。人は何か信じるものが必要で、それで神を作り出したのだ。聖書は単に、最高の存在（神）に対する人間の概念や考えの話を集めた物にすぎない。」この思いは、私がこの観点を批判的に評価し始めるまで三十分ほど続きました。宇宙の存在を神から切り離して説明しようと考え始めた瞬間、私は理性を優先させ

ざるを得ませんでした。創造主である神から離れて命の存在を説明する事は、白雉同様に知性のない状態でなければなりません。私は私自身をそのような非理性的な状態におく事はできませんでした。そうでなかったら、私は全ての不合理で馬鹿げた事柄を信じなくてはなりません。見る能力というような、すばらしい明らかに驚くべき不思議ないのちの性質が、何千もの偶然の事故的環境によって創られたと信じなくてはなりません。目の構造と完全な機能が、小さなミミズに太陽光線が当たり、その額に突然変異が起こったことから始まった、という考えを信じなくてはなりません。（私はミミズのどこが額でどこが額ではないのかは知りません。）しかし、この変な物が、徐々に何億年間という時と数えきれない変異を通し、目へと形創られていった。そうして生き物は視力を得た。この同じ小さなミミズが、その組織を何度もこすったので組織に傷ができて、完全に発達した足になった。さて、このミミズは今、山椒魚になって、見る事も歩く事もできる。これは理性的ですか？冗談じゃないです！

愚か者は心の中で神などいないと言います。創造における設計の証拠を拒否して論争しようとするれば、人は非常に思慮がない状態を取らなくてはなりません。私は自分自身の経験からして、神を信じる方が、神の存在を否定するよりも簡単である事がわかりました。神を信じない事は、あまりにも多くの困難をもたらしました。私は神の存在を信じています。そしてそれは聖書によれば、私は愚かではない事を証明しています。しかし、全ての人は、信じるか信じないかの選択を決めなくてはなりません。イエスは、もしあなたが彼を見たならば、あなたは彼を遣わされたお方（神）を見たのだと宣言しました。イエスは、もしあなたが彼を信じるならば、あなたは彼を遣わされたお方（神）を信じるのだと宣言しました。イエスは、あなたを救いに来た、彼のことは永遠のいのちである、それらは自分自身のことばではなく、天の父なる神のことばであると宣言しています。天の父なる神が、彼

(イエス)に、何を言うべきなのか、私たちに何を話すべきなのかをおっしゃったのです。もしあなたが信じないなら、あなたは暗闇にとどまり、ある日、神の偉大な裁きの御座に立つ事になるでしょう。私は信じたいです。私は信じます。私は私の信仰に何の問題もありません。

天の父よ、私たちはあなたが数多くの豊富な証拠を私たちに提供して下さった事を感謝します。それによって誰でも考える者、理性を持っている人間が、イエス・キリストを信じる信仰を持つ事に完全に満足する事ができます。私たちは、イエス様がこの世を罪から救うために来て下さった神の御子である、と簡単に信じる事ができます。イエス様はこの暗闇に光として来られ、彼のことばを聞いて彼に従う者は、暗闇を歩くことがなく、いのちの光を持っています。主よ、イエス様の宣言を確証する、多くの絶対的証拠を感謝します。天の父よ、私たちはこの問題と戦っている者のために祈ります。主よ、彼等には中立的立場がないのだと気付く事ができるように、彼等を助けて下さい。彼等には信じるのか信じないのか、どちらかの立場しかありません。天の父よ、私は祈ります。どうかあなたが彼等を堅く力強い信仰へと導いて下さいますように、そして、あなたが聖霊の力によって、真理の証しを持って、彼等の心に信仰の立場を確認させて下さいますように、イエス様のお名前を通し、お祈りいたします。アーメン。